臨床研究に関する情報公開

＜人を対象とする医学系研究に関する倫理指針＞に基づき，研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば，他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で，研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて，患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので，下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも，患者さんに不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞

乳癌術後の放射線治療における放射線肺臓炎と漏斗胸などの胸郭変形についての観察研究

＜研究機関・研究責任者名＞

日本大学医学部附属板橋病院　放射線科　(研究責任者)石橋 直也

＜研究期間＞

承認日　～　西暦　2019 年　7 月　31 日

＜研究の目的と意義＞

乳癌の乳房温存術後の温存全乳房への放射線治療は再発を減らし生存率を向上させることが過去の臨床試験で証明されている。このため我が国でも乳癌の放射線治療は年間約 39800 件行われ原発巣別の放射線治療件数の第一位である。温存全乳房への放射線治療として歴史的に target volume である乳腺のカバーが良好な接線方向の beams による放射線治療が広く行われている。 そしてこの時の接線方向の beams の照射野内に肺が含まれるため肺の照射線量と放射線肺炎の相関について古くから検討されている。そして漏斗胸の場合は接線方向の beams では照射野内の肺の体積が大きく肺炎が増加することが懸念される。しかし実際に接線方向の beams による放射線治療で肺炎が増加するか放射線治療後に経過観察した報告は今までない。今回我々は漏斗胸の評価に用いられる胸郭の様々な指標を正常人を含めて CT で計測し肺の照射線量と放射線治療終了後の CT における肺障害の関係について初めて検討した。本研究の結果によって漏斗胸が肺臓炎のリスクになるか分かる可能性がある。

＜利用する試料・情報の項目＞

今回我々は過去に乳癌に対して放射線治療を行った患者さんについて放射線治療用に撮影された CT 画像から胸郭の変形があるか計測し放射線治療後の CT 画像での肺炎と関連があるか追跡調査で検討を行う。

また放射線治療における肺の照射線量やホルモン療法などと肺炎と関連があるか追跡調査で検討を行う。

＜対象となる患者さん＞

2016 年 1 月 1 日～2018 年 8 月 1 日の期間に当院で乳癌の放射線治療を開始した方

＜研究の方法＞

胸郭の変形の指標と肺の照射線量と放射線治療後の肺炎との関連について追跡調査で検討を行う。

また放射線治療における肺の照射線量やホルモン療法などと肺炎と関連があるか追跡調査で検討を行う。

＜お問い合わせ窓口＞

日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1)

放射線科　　氏名:石橋 直也

電話:03-3972-8111　内線:(医局)2553　(PHS)8648